



『解体新書』余話

秋田県立図書館長 菅原 敏紀



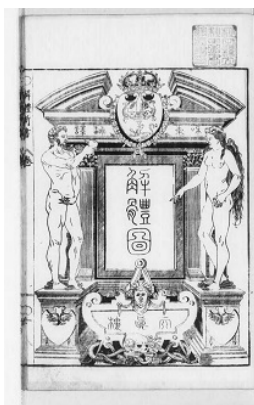
県立図書館所蔵資料の中に一七七四（安永三）年版『解体新書』があります。『解体新書』は、ドイツの医学者J・A・クルムスの解剖学書“Anatomische Tabellen”をライデンの外科医

G・ディクテンが“Ontleedkundige Tafelen”と改題してオランダ語訳し、それを杉田玄白、前野良沢をはじめとする蘭方医が漢文体で翻訳したものです。オランダ語知識の十分でない彼等が、苦心の末に翻訳を進める様子は、玄白晩年の回想録『蘭学事始』に詳述されており、一八九〇（明治二三）年に再版した際の序文で福沢諭吉は、「之を讀む毎に、先人の苦心を察し、其剛勇に驚き、其誠意誠心に感じ、感極きわまりて泣かざるはなし」と自身の思いを吐露しています。尤も『蘭学事始』自体は、玄白の誤謬や記憶違い、さらには『解体新書』以前の蘭学受容史の恣意的改変など看過できない部分もあります。とは言え、『解体新書』が鎖国下の江戸時代に西洋医学（解剖学）の扉を開き、医学発展に寄与した功績は高く評価されています。

さて、刊行から二百五十年近く経ているにも関わらず当館所蔵の『解体新書』は状態が良いこともあって、度々日本史の教科書や資料集に写真が掲載されています。一度は目にされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。また『解体新書』の扉絵と百四十余の人体図譜は角館出身の秋田藩士小田野直武が描いており、『解体新書』跋文で直武は、自身が関わることになった経緯と写図に当たった苦勞を綴っています。その後、藩主佐竹義敦（号：曙山）公を中心に花開く秋田蘭画の一翼を担うことになった直武は、数奇な生涯とともに、広く知られる存在となりました。

当館の『解体新書』購入は一九一五（大正四）年まで遡ります。旧蔵者は大館出身の言論人で、在野の東洋史家長井行（号：金風）です。金風の博識は文豪森鷗外からも一目置かれており、代表的史伝『洪江抽斎』その四では、鷗外が執筆に当たって抽斎の人物照会を金風に求めると、たちどころに「弘前の洪江なら蔵書家で経籍訪古志を書いた人だ」と回答しています。ただ、金風と言っても一般には馴染みの薄い人物であることは否めません。

ところが昨年の初夏、根本通明と金風の資料を求めて、当館を訪ねて来られた人物があり、事情を確認したところ、東北大学大学院で日本思想史、主に明治期の易学を専攻されている留学生の方でした。通明、金風はともに秋田で生を受け、かたや東京帝国大学教授として、かたや私塾においてと立場は異なりますが、近代化に邁進する当時の時流に抗うかのように、己の信ずるまま易学を講じました。時を経て二一世紀の現在、人々から忘れられようとしている通明、金風に向き合う学究の徒、しかも留学生がいることに心打たれました。「百年の知己を俟つ」とはよく言ったものですが、まさにその言葉を目の当たりにする思いでした。



「解体新書」扉絵

先人の優れた業績を伝え、後世に継いでいくことは、今を生きる者に与えられた役割と言えます。今後も当館所蔵資料が、その手助けとなることを願ってやみません。

『サービス向上のための評価アンケート』結果

県立図書館では、今後の図書館サービスの向上に活かすため、利用者の皆様へ『サービス向上のための評価アンケート』を行いました。その結果をまとめたものの一部を紹介します。

■実施期間 令和4年9月8日（木）～15日（木） 7日間 ※9月14日（水）は休館日

■実施方法 閲覧室入口でアンケート用紙を配布し回収

■回答者数 延べ422人（内有効420人）

※前回は令和元年度に実施

※自由記述欄に記載の要望等への対応については、ホームページをご覧ください。

◆調査項目と回答結果

1 回答者についての質問

■年齢

年代については、中高年、高齢者の利用が顕著であり、40代～70代で68.2%を占めました。

■住所

秋田市内の方が93.3%、その他6.7%でした。県外からの来館者は1名でした。

■利用目的 ※複数回答可

71.2%の方が自分の趣味や楽しみでの利用でした。また、個人や仕事上の調査研究、資格試験等のための勉強としての利用が38.1%あり、生涯学習施設としての図書館本来の利用がされている利用者が多いことがわかりました。

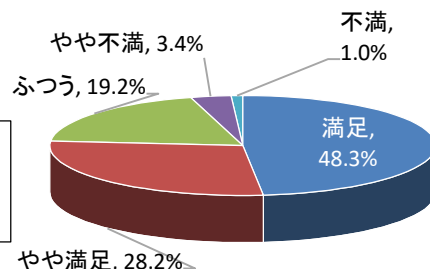
■利用頻度

月に数度の利用が34.1%と最も多く、週に複数回利用の方も21.1%おり、前回より4.6%増加しました。

2 図書館サービスについての質問

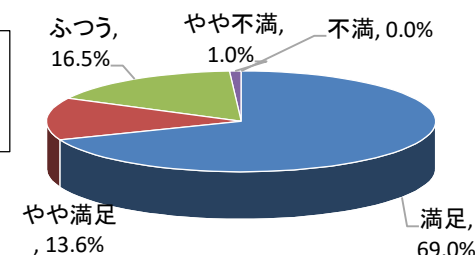
①本館が提供している資料（図書、雑誌等）について、満足していますか。

資料が充実しているとの評価を多くの方からいただきました。前回より若干満足度が上昇しています。具体的な指摘のあった部分については、今後の資料選定の参考にさせていただきます。



②本館の職員の対応について、満足していますか。

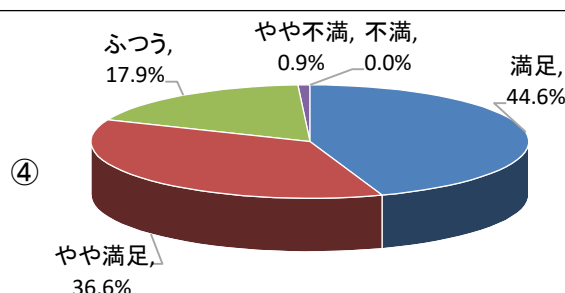
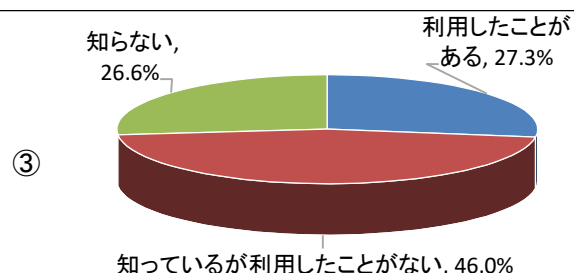
多くの方から、親切・丁寧・誠実という高い評価をいただきましたが、一方で不満と記載の部分には厳しいコメントもありました。今後も職員全体のスキルアップとサービスの改善に取り組んでまいります。



③生活や仕事等の課題解決サービスについて、知っていますか。また、利用したことがありますか。

④利用した人はこのサービスについて、満足していますか。

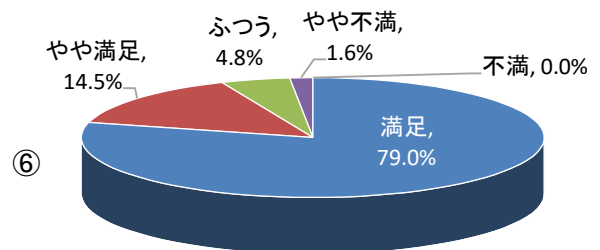
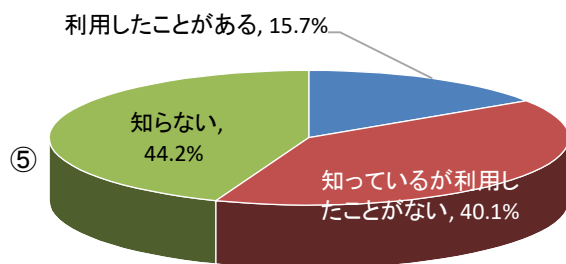
約7割の方が知っており、利用実績も前回より高くなっています。また、満足度は、前回より上昇しました。今後も引き続き課題解決サービスの周知を図り、利用者数の増加と満足度の上昇に取り組んでまいります。



⑤レファレンス・サービスについて、知っていますか。また利用したことがありますか。

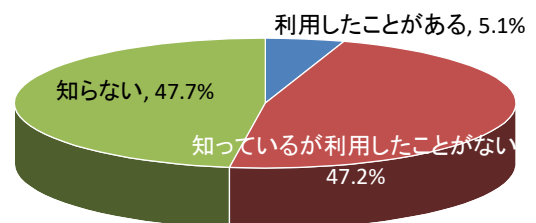
⑥利用した人は、このサービスについて、満足していますか。

前回より認知度が若干ですが高くなりました。一方でコロナ禍による利用制限のため利用数は減少しましたが、満足度は前回より大幅に上昇しました。引き続き職員のレファレンススキルの向上を図ってまいります。



⑦視覚に障害を持つ利用者向けのサービスについて、知っていますか。また利用したことがありますか。

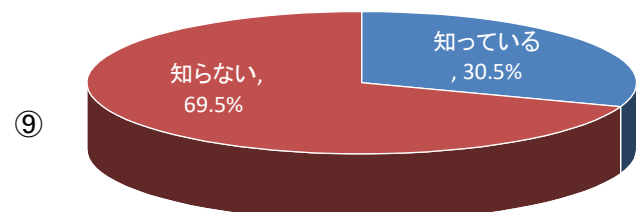
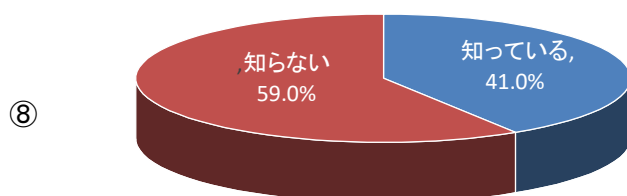
今回新設の項目でしたが、半数以上が知っていました。提供サービスの充実を図るとともに、引き続きこのサービスの周知を図ってまいります。



⑧県立図書館が、市町村立図書館等を支援する役割があることを知っていますか。

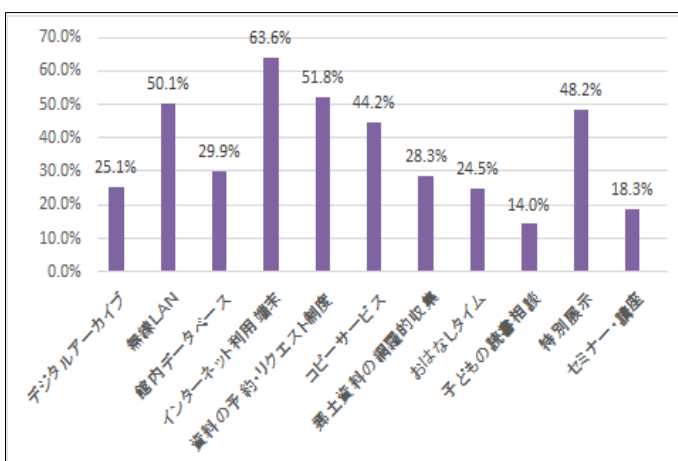
⑨県立図書館が、小中学校や高等学校、特別支援学校へ資料の貸出を行っていることを知っていますか。

どちらも認知度がまだ低くなっています。市町村立図書館等への支援業務は、カウンターサービスや郷土資料の収集と合わせ、本館の大きな役割の一つです。子どもの読書活動の推進の一環としてここ15年ほど力を入れている学校貸出と合わせ、今後も県民の皆様に理解していただけるよう取り組んでまいります。



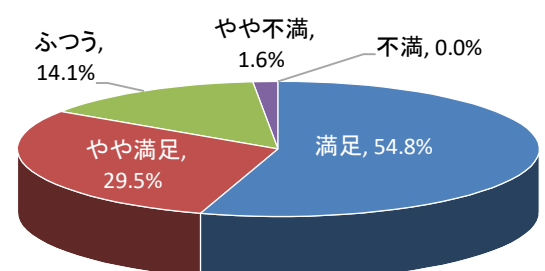
⑩県立図書館では様々なサービスを行っていますが、それらについて知っていますか。※複数回答可

前回より多くの項目の認知度が低下しました。コロナ禍によるイベント等の中止も一因と思われますが、今後も諸サービスの周知を進めてまいります。



⑪全体として本館のサービスについて満足していますか。

満足・やや満足を合わせ84.3%の評価をいただきました。今後も満足度の向上に全職員で取り組んでまいります。



Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

安井浩司・今野賢三の資料について

秋田県の郷土資料として、安井浩司の詩集を3冊、今野賢三の小説を3冊収集しました。

令和4年1月に亡くなった安井浩司は能代市出身の俳人で長く秋田市に住んでいました。『青年経』『赤内楽』『中止観』は安井の第1～3句集にあたるもので、このうちの『赤内楽』には、安井自身のものと思われる句や文章の推敲の跡が数多く残っています。今野賢三は秋田市土崎生まれ、小牧近江らと共に「種蒔く人」同人を創刊、プロレタリア文学作家としても活躍した人物です。新潮社で出版された『闇に悶ゆる』『薄明のもとに』『光に生きる』の3冊は、今野賢三が自身の青春の日々を元にした自伝的小説であり、総称として「暁」三部作と呼ばれています。



上段: 安井浩司詩集3冊
下段: 今野賢三「暁」三部作

情報班・サービス班

秋田県知事部局との連携展示



連携展示の様子。この展示は令和4年3月14日に終了しています。

当館では行政機関や関係団体等の様々な事業と連携した展示を実施しています。その中の一つに、県の知事部局の部署と連携するものがあります。広く県民に施策を紹介したい部署から話を伺い、館所蔵の関連書籍を集めて展示や貸出しを行います。また部署からもらったポスターの掲示やパンフレット等の配布を行うこともあります。

令和4年度は健康づくり推進課やスポーツ振興課などと連携して実施しました。展示の実施は不定期です。この連携展示に行き当たったら、ちょっとお得かもしれません。

企画・広報班

お金と暮らしのセミナー

3年ぶりに秋田県金融広報委員会との連携により「お金と暮らしのセミナー」を開催しました。講師には金融広報アドバイザーの齋藤廣勝氏を迎え、1回目「将来(老後)生活の“見える化”を」では参加者が各自の年金定期便を使い、将来受け取る年金額を計算しました。その算出を受けて、2回目「年金制度の改正内容とそれぞれの選択のために」では年金の繰り上げと繰り下げのメリットとデメリット、iDeCoやNISAの活用などについて、わかりやすい解説がありました。参加者からは、「年金支給額が具体的に becoming 将来の糸口が見えそう」「年金の繰り上げ、繰り下げの判断はそれぞれの状況で変わってくる」という声が多く聞かれました。



年金定期便を用いて、それぞれの年金支給額を計算する参加者



さまざまな年金支給例ごとの累計について、資料を説明する齋藤廣勝氏

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■県立博物館との連携展示 特別展示「美の國の名残・選⁺」

およそ半世紀をかけて県立博物館が収集してきた様々な収蔵品に目を向け、「美」という観点で迫ります。歴代学芸員の幅広い見識と感性豊かな審美眼に敬意を表し、「美の国秋田」の遺産として紹介します。

- 【期間】 4月1日(土)から5月28日(日)まで
※毎週水曜日、年末年始は休館日
- 【時間】 午前9時30分から午後5時まで
- 【会場】 特別展示室
- 【入場料】 無料